

# 魔法の種 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名：大岡 秀樹 所属：香川県坂出市立東部小学校 記録日：2017年2月16日  
キーワード：コミュニケーション、表現、興味・関心、自信、感覚

## 【対象児の情報】

- ・学 年 小学校 第1学年
- ・障害名 自閉症
- ・障がいと困難の内容  
基礎的な感覚を感じにくく、手際よくいろいろなことを行うことができない。  
感覚・感情を表現する言葉を選択することができない。  
自発的な排泄行為がとれない。ものを見つめる力が弱く、持続しない。  
人とのコミュニケーションがとれない。  
感覚の統合がむずかしい。

## 【活動目的】

- ・当初のねらい  
言葉と行動がつながり、明瞭な言葉で意思表示ができるようになる。  
  
やりたいと感じたことや得意なことを見つけ、意欲的に取り組むことを通し、感情表現を豊かにする。  
  
担任・級友と対話によるコミュニケーションをとる経験を積み重ねて、適切な級友との関わりをもつことができる。  
  
感覚や感情表現を豊かにするため、基礎的な感覚への反応を高める取組を継続したり、好きなことを見つけ取り組んだりし、自らの感覚や感情を表出していく機会を増やす。
- ・実施期間 平成28年5月～平成29年2月
- ・実施者 大岡 秀樹 (松本美智子担任、檜尾由美子特別支援学級加配)
- ・実施者と対象児の関係 教頭 (週1回1時間、授業を担当)

## 【活動内容と対象児の変化】

### ・対象児の事前の状況

- 穏やかな性格で感じていることはあるが、感覚・感情表現が乏しく、会話も少ない。

→**気持ちや感情を言葉として表現していく力が必要**

- 基礎的な感覚が未成熟で、作業を手際よくすることができない。視覚による認識も弱そうである。

→**感覚統合につながる運動を通して基礎的な感覚を身につけることが必要**

- 自ら何かをしようとすることは少なく、やりたいとかやりたくないとかの意思表示も少ない。目を輝かせ、やりたいと思うようなことを発見、または自覚することがまだである。

→**やりたいことや得意なことをたくさん見つけていくことが必要**

- 友達と関わりをもちたいという気持ちはあるが、関わり方や遊び方がわからない。

→**自分の気持ちを伝える手だてを習得することが必要**

- ひらがなやたし算、ひき算等事前に家庭でじっくりと指導しているため機械的に処理することはできるし、自分の名前や物の名前などは書くことができるが、文章として意味を読み取ることはできていない。

→**基礎・基本となる学力は伸ばしつつ、想像をふくらませながら文章を読んでいく力が必要**

(交流学級で学力の心配をすることなく、コミュニケーション力を付けていくために)

### ・活動の具体的内容

- 言葉と行動がつながり、明瞭な言葉で意思表示ができるようになる。

→**iPadで写真を撮ろう**

好きな物や写真に撮りたい物、自分の作品などをiPadで写真に撮ることを始めた。その際に「〇〇を撮ります。」(単語から文へ)と言いながら撮ること。撮影した後、写真について説明することを通して、明瞭な言葉で意思表示ができるようになることを目指した。

撮影を始めた5月末では、「〇〇を撮ります。」と言いながら興味をもって写真を撮った。

しかし、フレームの中心はずれていた。日頃使っているものや関わってくれている人を撮ることが多かった。また、「どうして」撮ったのか説明することはできない状況であった。



図工や生活科で作っているものなども「〇〇を撮っていいですか」(他者との関わり)と日常的に撮影するようになった。1ヶ月ほど続けていく中で、フレームの中心が次第に合ってきた。撮影したものを思い出したように振り返ってみる

ことも増えてきた。



並行して行っている感覚統合につながる運動の成果としてしっかりとiPadを持ち、対象物を見ることができてきているものと思われる。

2ヶ月ほどで、「〇〇を撮ります」と撮影することができるようになった。図工や生活科で作った作品については、どんなところをがんばったのか、好きなところはどこなのか説明することもできるようになってきた。

iPadのカメラ機能を使うことが、余暇(休憩時間を楽しんだり、土、日を過ごしたりする中で)の楽しみのひとつとなった。



身に付けた写真を撮る技能を生かし、撮影した画像を自分でパズルにして楽しむアプリ「Jigsaw Box」での活動へとつなげた。家庭でも余暇を利用して行うことで、ビジョントレーニングや指の操作練習を兼ねることもできている。



### 「Jigsaw Box」

8ピースから252ピースに自分で撮影した写真をパズルにすることができる。

見ること、指先のトレーニングのために使用。

- ・自分で撮影した写真をパズルにして、楽しく取り組むことができている。

### →ByTalk for School で伝えよう 平成28年9月からの取組

ByTalk for School で通信を楽しみながら、気持ちを伝えることやコミュニケーションを楽しむことができるようになることを目指した。



### 「ByTalk for School」

安全な環境で使える学校専用SNS

簡単な操作で、スタンプや写真も簡単に添付できる。

- ・文字入力の仕方もすぐに習得し、毎日活用している。

始めは、会話がかみ合わない状況が続いたが、次第に会話が成立するようになってきた。気持ちを表現する言葉も増えてきている。フリック入力が身に付き、入力のスピードも速くなっている。(見る力)

○基礎的な感覚そのものを育てるために、感覚統合につながる運動を学校と家庭で行う。

### →動画に合わせて体を動かそう

感覚統合につながる運動を動画を見ながら、家庭や学校で継続して行った。

運動会や学習発表会などでの体操や踊り、毎月の集会での動作を付けた今月の歌などの動画を見ながら学校や家庭で練習をして、踊っている。全校生の中や学年の中で、友達と一緒に振り付けを付けて踊ることはとても好きで、楽しく活動することができている。踊りの動画を手伝ってくれている集会委員の上級生とも仲良くなり、日常的に一緒に遊んだり、練習したりすることもでき、コミュニケーションの機会ともなっている。



感覚統合につながる運動を動画を見ながら行ったり、動画を持ち帰り家庭でもしてもらったりしている。(キャッチボール、手おし車、くぐる、的当て、わくぐり等) また感覚統合につながる運動「タオルでたいそう!!」自作DVDを保護者に渡し、家庭でも継続的に行っている。

○やりたいと感じたことや得意なことを見つけ、意欲的に取り組むことを通し、感情表現を豊かにする。

○基礎・基本の学力の定着を図りつつ、得意なこと・好きなことを見つけていく。

### →やりたいことや得意なことを見つけよう

いろいろなアプリを通して、やりたいことや得意なことを見つける。ひとつでも多く、やりたいことや得意なことを見つけ、楽しく取り組んでいくことで将来の夢を広げていくことを目指した。



### 「モジルート」

指で数字をなぞっていく。数字のまわりにはその数だけいろいろな物がある。

なぞっていくときに、なぞっているキャラクターに合った音が出る。

- ・数字に興味がることと、タップすることと動き、音声が連動していることに興味がある。
- ・算数へつなげていくこととした。



「小学生国語 言葉と文」

言葉と文についてのゆびドリル。なぞる線がでてこないで字の形が求められる。問題量も多い。

- ・わかっているがガイドラインが出てこないで、字形をきれいにとらえようとする事ができた。
- ・字形を整えるために、視覚と指の感覚を育てていくことにつなげた。→「VisionTrain1」アプリ



「VisionTrain1」

8×8マスのゲーム板の中で色が違っているマスをクリックしていく。見る力をつけるためのトレーニングに使用。

- ・家庭学習をする前に毎日、家庭で取り組んでいる。進んで取り組むことができています。



「わかる！さんすう小学1年」

教科書に準じた内容で、問題を読み上げてくれたり、何度も挑戦したりできる。解いていく筋道でキャラクターやストーリーが進むので理解しやすい。

- ・数字や時計にとっても興味をもち、どんどん課題を正確にクリアしていくことができた。
- ・図形については少し戸惑いがあるが、楽しみながら進んで学習ができています。



「デイジーポッド」

申請をして1年生の国語の教科書をデイジーポッドで使用することにした。

iPad に集中するので字を目で追うときに集中できている。

- ・初めての文章を読んでも字を追っていくスピードが落ちるが、読みに集中することができた。
- ・交流学級よりも先に学習を進めることで交流学級でも安心して学習に取り組んでいる。

・対象児の事後の変化

- 集団に参加しての行動ができるようになってきている。

・運動会や児童集会でのダンス 振り付け ・整列 ・避難訓練

動画で繰り返し、見て見通しをもつこと、また練習することで戸惑うことなく行動できるようになってきている。

- 交流学級の子と同じ仕方・速度での行動ができるようになってきている。

・音楽の授業での鍵盤ハーモニカ ・給食・掃除

感覚統合につながる運動や楽しみながらカメラで写真を撮ることを通して、指の力、足の力、注視する力がついてきたことが役立っている。

感覚統合につながる運動を家庭でも行ってきており、筋力もついてきている。

- 適切な要求言語を言えるようになってきたし、会話の際に視線が合うことも増えてきている。

「一緒に遊ぼう」「したくない」「つかれた」「いっしょにしよう」などの言葉を自発的に言えるようになってきた。笑顔も増えている。

- 算数に関するアプリは興味を持って取り組み、基礎学力は定着している。

- にぎる、ちぎる、つめる、のばすを粘土でできるようになった。

- ぞうきんをしばり、廊下を拭くことができるようになった。



○ 国語や算数など、アプリを使って進んで学習することにより交流学級で安心して一緒に活動することができている。

○ 好きなことが見つかった！

「城」に興味をもつようになった。家庭で休みの日は、外出して活動することを心がけてくれている中で、「丸亀城」



(香川県)に行ったことをきっかけに好きになったようである。

「城」には、坂道や砂利道、溝などたくさんあるが、体力、感覚が育ってきていることもあり、楽しく「城めぐり」をしている。

その内容をSNS (ByTalk for School) で会話することで、伝えたいことを伝えることができたり、話のつじつまがあったりするようになった。

また、地図を見たり、ネットで調べたりしようとする意欲にもつながっている。



### 【報告者の気づきとエビデンス】

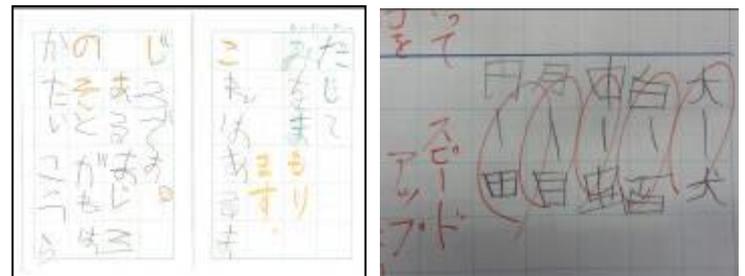
○主観的気づき

- ・ものを見つめる力がついてきたのではないかな。
- ・基礎的な感覚への反応が高まり、活発になってきたのではないかな。
- ・楽しかったこと、伝えたいこと、感じたことなどを自分の言葉で表出することができるようになってきたのではないかな。

○エビデンス

・iPadで写真を撮る取組やビジョントレーニングを楽しみながら継続した。意識して見ることをトレーニングしていくことで、マスの大きさのノートに字が収まらなかったのが、マスの大きさのノートに字が収まるようになった。

本を音読するときも適切なスピードで文字を追うことができるようになった。



<6月のノートはバランスがもう少し→2月のノートではバランスが整ってきている>

・「ByTalk for School」によるやりとりから、相手意識が育ち、感情表出も多くなり、言葉のやりとりも成立するようになった。

日常の会話の中でも「すき」「したい」「やめて」「おねがいます」などの言葉が増え、表情も豊かになり、笑顔が増えている。



・感覚統合につながる運動を動画を見ながら継続して行うことで、体幹が育ち、できることが増え、積極的に活動することができるようになってきた。

15分の掃除の時間内に廊下を水拭きすること(3往復)ができるようになった。ぞうきんしぼりや水の片付けも時間内に行うことができるようになった。

校内持久走大会でも1年生全員とともに1,000mを一人で完走することができた。

おおなわとびでも、一人でおおなわに入ることができるようになった。



## ご家庭より

ビジョントレーニングを始めた頃は 50 点ぐらいだったのが、継続していくうちに 65 点になりました。字は書けるものの大きさがばらばらだったのが、文字の大きさ、バランスが整い、筆圧も安定し、小さな文字を書くこともできるようになってきました。眼の動き、眼と手の連動がよくなってきたと思われます。眼球の動きがよくなったせいか、似顔絵に変化がありました。1 年前は顔だけの似顔絵でしたが、体や手足、指 5 本を描くなどできるようになりました。また、鼻が○から△の形に変化し、鼻腔が 2 つ描けています。口は閉じた形から笑った開いた口に変化が見られました。お絵描きが好きになり、主に好きなエレベーターを描きますが、色の使い方がバラエティになり、塗り絵が上手になりました。人をよく見て描こうとしたり、記憶の中のものを絵で再現しようと努力したりする姿が伺えます。

また、「タオルたいそう」をしていることで体の動かし方を体感できているように思われます。連動して微細運動は小さなお豆をお箸でつかむ動作がスムーズにできていると通っている運動療法教室でも言われました。危険と思われる場所にも挑戦したいという意欲が出てきました。木登りのような高い所、歩道の路肩、体育館の外側の通路の端など。感覚統合の土田玲子先生の講演でも言われていたように安全で合法的に環境を提供すればとても好ましい行動だと思います。 ～ 母より ～



<入学前に家庭で描いたおじいちゃんの顔>

<5月に描いたカタツムリ>

<平成28年12月に描いたおじいちゃんの顔>

<10月に作ったライオン>

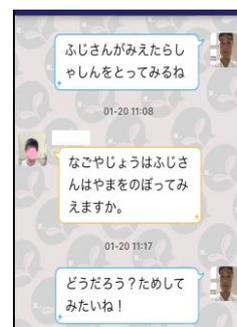
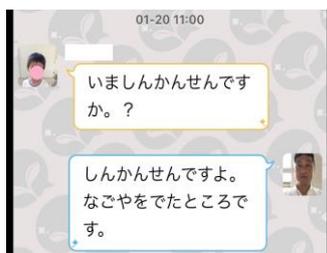
### ○その他のエピソード

「城」に興味をもつようになったことで、自主的に「城」について場所やそのものについて調べていく手だて（本で調べたり、ネットで検索したり）を身に付けることができつつある。興味を持ったことについて、自分から話をしようとする姿も見られるようになった。



<ネットでねんどで作りたいと思った「城」の画像を探し、「城」を作っていくこともできた。>

また、実際に「城」へ行って、写真や動画を撮ることもできている。全国に城は点在していることから、地図アプリを使って場所を調べたり、その地域について学んだりすることへ発展してきている。（自らの意欲により家庭で取り組んでいる。）調べ方のスキル、まとめ方のスキルを身に付けていくことで、好きなことが変わっても、また他に興味がわいたことがあったときにも役立っていくと確信している。



香川県坂出市の公立小・中学校では、原則タブレット端末等については、使用禁止となっている。

今回、市教育委員会の許可を得て、「魔法の種」プロジェクトに参加させていただいた。タブレット端末を特別支援学級に止まらず、通級学級、通常学級でも活用することでその必要性和有効性を全教員に実感してもらっている。

また、域内特別支援学級の研修会でも「魔法の種」プロジェクトの取組を紹介し、啓発に努めた。

市教育委員会にも要請訪問で実際に活用している様子を見てもらい、その必要性和有効性を伝えた。来年度、実験的に市内特別支援学級にタブレット端末導入のための予算化を進めてくれることとなった。

